

「志高く、未来に向かって輝く生徒」育成プラン（いじめの未然防止）

【教職員一人一人の取組】

- 職員研修をしっかりと受ける
- 生徒一人一人と向き合い、コミュニケーションを積極的にとる
- 生徒一人一人の個性を尊重して関わる
- 生徒一人一人の表情などの様子をよく観察する
- 教室や廊下での挨拶を明るく元気に行う
- 公共心を育てるためのマナー指導や日常的な声かけをする

	指導の観点	効果が期待できる単元・活動
国 語	その場集っている全員で授業を作り上げているという点を常に意識させ、他者の活動にも積極的に関わりを持つように支援する。 言語感覚を磨き磨かせ、知的に他者への思いやりの心を育てる。	○「タオル」：死というものをどのように捉え、家族との関係性において自己の存在をどう捉えるか考える。 ○「わたしが一番きれいだったとき」：想像力を豊かにし、言葉に対する感覚を磨かせる。 ○「通常と言う言葉の意味」：国際的な社会人として求められる「連帯」の在り方について考える。
地歴公民	人権意識に欠けた発問や授業とならないよう、周到な教材研究を行う。 基本的人権の確立の歴史について学習し、自分の在り方・生き方について考えさせる。	○自然権思想：自然権としての基本的人権の意義について知り、権利の源泉となる自由や平等について理解する。 ○民族紛争：世界各地で現在も行われる様々な紛争とその原因について知り、他者や異文化理解の重要性について考える。 ○第二次世界大戦と日本：沖縄問題、被爆者の方の歴史など、現代における課題に正しく向き合う姿勢を身につける。
数 学	生徒の発言や行動等が他の生徒への人権を損なう可能性がないか観察する。 課題学習等とおし、グループワークや意見交換を行い、コミュニケーション能力と他者を尊重する意識を高める。	○課題学習：学習のテーマに沿ってグループで協議・発表を行い、コミュニケーション能力や他の意見を尊重する意識の向上を図る。
理 科	実験など協働で作業する場面での生徒間の様子を観察するとともに、実験レポートを作成させ評価する。 科学技術の発達による倫理問題を的確に明示することで人権感覚を養う。	○実験実習：実験を行うことで他者との協調性や相手を思いやる態度を養う。 ○テスト前：問題を生徒間で教え合う時間を設け、生徒の自主性や協調性を身につけさせる。 ○「牛深の生物」：地域に住む生物を調べることで、いかに多くの生物とともに暮らしているかを知り、生命の偉大さ、大切さについて考える。
保健体育	生徒の練習やゲームでの発言・行動を評価する。 得意な者と不得意な者が互いに助け合い、活動しているか評価する。	○体育大会の練習（マスゲーム）：互いに助け合い、協力しながら技を完成させることができる。 ○持久走：互いにきついときに励まし合い、走りきった時の充実感や達成感を味わうことができる。 ○「ストレスへの対処」：ストレスへの対処方法を学び、互いの心の状態に気づき行動することができる。
芸 術	芸術の表現活動を通して、他者の作品や発表を認め、尊重する態度を育てる。 生徒の作品や発表に対して、指導助言を行い、適切に評価する。	○文化祭の展示、発表に向けて：文化祭の練習において、他者と協力しながら取り組むことで、協調性を身につけさせる。 ○文化祭：書道の展示や合唱の発表において、互いのよさを認め合うことができる。
外国語	授業中の生徒の様子をよく観察する。	○ペアワークやグループワークを活用し、色々な生徒と助け合う場面をつくる。 ○他国の文化を理解しながら、人種差別の歴史や他者を尊重する姿勢を学ぶ。
家 庭	班別学習時の生徒の様子を観察し、互いに協力しながら活動しているか評価する。 男女共同参画社会の実現や、エバーグリーンなど、共生の考え方を持つように意識づける。	○衣・食生活をつくる：実習において班別活動を行うことにより、他者と協力し合う態度を育てる。 ○子どもとともに育つ：保育実習を通して、自らを振り返って自分自身を見つめなおし、将来の生活設計について考えを深める。
情 報	実習において他者へのいたづら等がないか気をつける。 情報モラルの大切さを認識させる。	○情報機器を使いこなす：パソコン室の利用の仕方を学ぶことで、他者への気遣い、配慮についての認識を深める。
商 業	生徒の発言等が人権・モラルの観点から不適切でないか、個別活動において、他者へのからかいがないか観察する。 インターネットの利用について、情報モラルやエチケットを意識づける。	○「情報モラルとセキュリティ」：自分が発信した情報により、自己も他人も傷つく可能性があることを気付かせる。 ○「人間関係と仕事」：組織の一員としての言動や行動について、周囲への配慮を念頭におくことを意識づける。

人権感覚を磨く取組

4 月 「平成 27 年度人権教育取組の方向」の確認

5 月 ハラスメントに関する職員研修

6 月 いじめに関する職員研修

7 月 DV 未然防止教育講演会

7 月 1 学期の振返

10 月 SNS に関する職員研修

12 月 2 学期の振返

1 月 いじめに関する職員研修

2 月 年間の振返

【年間を通した取組】

- 各教科の取組
- 各部の取組
- 年次・学年の取組
- 人権教育（HR）
- 朝会要項への人権関連記事の掲載

いじめを未然に防ぐ取組
生徒理解を深める取組

5 月 生徒理解報告（情報の共有）

5 月 教育相談委員会

6 月 生徒会からの呼びかけ

6 月 いじめに関する職員研修

6 月 「心のきずなを深める月間」ポスター、ちらしの掲示

6 月 心のアンケート

7 月 人権メッセージ募集

8 月 生徒会の主体的な活動（標語募集）

9 月 いじめ防止委員会

9 月 心のアンケート

12 月 心のアンケート

1 月 いじめ防止委員会

【年間を通した取組】

- 各教科の取組
- 各部の取組
- 年次・学年の取組
- 人権教育推進委員会

【3 学年】学年での人間関係を把握し、クラスを超えた生徒の状況に学年職員で対応する。

【2 学年】生徒の様子や生活状況などの情報を、活発に話し合い全員で教習する

【1 年次】「みんな違ってみんないい」というような互いの違いを認め合える雰囲気づくり

【教務部】人権に配慮した言葉遣いを意識する。

【進路部】3 年間を通したキャリア教育で、他者を大切にできる心、自分の課題を発見する力を育成する。

【保健部】毎朝の健康観察で生徒の様子を毎日把握する。気になる生徒についての意見交換、共通理解

【生徒部】昨年からの言い続けている、職員・生徒みんなで掃除に取り組もう！これこそが、他者への尊敬を忘れず、自己を大切に、日々の努力を怠らず健全な心身を養う。特別なことはいらない。当たり前ことを当たり前に行おう！

【牛深高校の教育目標】

教育方針（校訓）：「誠実」「敬愛」「勤勉」「創造」

育てたい生徒像：「志高く、未来に向かって輝く生徒～他者への尊敬を忘れず、自己を大切に、日々の努力を怠らず、健全な心身を養う。～」

具体的目標：1 人権尊重の精神を涵養する教育活動の推進 2 豊かな人間性と品格を備えた生徒の育成 3 生徒の未来を輝かせるキャリア教育の実践と学力の充実

4 開かれた学校づくり・魅力ある学校づくり 5 特色ある教育活動の実践と工夫 6 学校の教育力を高める手立ての開発

【牛深高校の取組】

○いじめ問題対策マニュアル・学校いじめ防止基本方針

○いじめ根絶「牛高生の行動宣言」

○牛深高校職員「いじめ未然防止のための手立て」